

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ハートの家伍番館 2	評価実施年月日	平成20年10月15日
評価実施構成員氏名	西野 陽子、寺澤エリ、鳴海千鶴、加須屋 恵、菊池麻衣子、福澤 雄介、桜庭 由紀子		
記録者氏名	国柄 幸恵	記録年月日	平成20年10月23日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>本年度法人内で地域密着型サービス提供のための理念を作成した。</p>		<p>法人内での新理念作成については、法人内の事業所管理者が互いに意見交換を行い話し合い作成した。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念はまる覚えするだけではなく、日常生活の中で実践し、見やすい場所に掲示してある。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域運営推進会議において紹介を行いました、当日参加できなかったご家族にも郵送で紹介している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>地域の商店、美容室を利用したり夏祭りの案内をしている。今年の夏祭りは近所の子どもたちが多数参加してくれたり、近隣の人の参加があったり、夏祭りに参加できない人からも家庭菜園でできた野菜の提供があった。また家庭で不要となった未使用のタオルや紙おむつ、衣料、手芸用品の提供して下さるようになった。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の活動は少ないが、町内会の総会に出席させていただき、ホーム紹介の時間を設けていただけたら、ホームから離れている商店街では昨年に引き続きよさこいソーラン見物をさせて頂き、その際にホーム入居者様の手作りのお菓子などお礼の品として受け取っていただいている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の人から伺った認知症家族の介護経験を参考に2ヶ月に1度発行している地域向けホーム便りに認知症についてのコラムを設け地域の皆様に介護保険のことや、認知症という病気への理解を深めていただけるよう取り組んでいる。また電話での匿名での相談も行っている。</p>		<p>入居希望の問い合わせの電話で満室状態でご希望に添えない場面でも何か困っている事や介護保険での解らないことの有無の伺い、必要に応じて地域包括支援センターなど関連機関のご紹介をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	<p>現在法人内での管理者会議でも成年後見人制度や地域権利擁護事業については学習を行っており制度利用を必要に応じて推進しているが、今後法人内での研修会で取り上げ法人内の全職員への学びの場の提供を検討中</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	○	<p>高齢者虐待防止関連法について勉強会等学ぶ機会を設けること検討中</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	認知症という事で利用者本人が意見・不満・苦情を伝え難い状況であり、日々の生活の中で職員側から表情・活気・ソワソワ感などから原因を探り引き出す様に取り組んでいる。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に1度御家族へお便り等にて日常生活の報告を行ったり、面会時に現状等の報告を行っているまた特変があった際には、その都度家族へ電話連絡と報告を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情相談の公的窓口やホーム内の苦情受付など説明し、またポスターなどの掲示を行っている。苦情ボックスも設置している		ご家族訪問時の言動の中に不満等が無いか常に留意し取り組んでいる。またご希望としてお話をくださった内容についても、苦情としての要因はないか常に検討しご家族の希望に添えるよう取り組んでいる。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの提案や意見については、申し出があった場合は管理者は職員と話し合い取り組んでいるが、改めて職員よりの聴集を広く聞く場は設けていない。		日常業務の改善などの意見や提案が職員から出された場合はユニット管理者やリーダー・サブリーダーと検討行ったり、毎月の会議で話し合わせ業務改善を行っている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日勤帯は早番・日勤・遅番と入居者の方の生活帯に合わせており、通院日などは、日勤の人数を増やし対応行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	現在の職員は平成20年4月より異動・退職などなく、管理者については、人員配置の規定変更に伴い平成18年1月の開設以来同じユニットで勤務していた職員をユニット管理者とした為大きく入居者の方と職員の馴染みの関係が損なわれ	○	今後、ユニット間での人事異動など踏まえ日々の生活の場面でユニット交流を行い他ユニットの職員と入居者の方々の馴染みの関係を構築できるよう取り組んでいる。また離職したスタッフが訪問してくれる事を楽しみにされており、離職したスタッフが気軽に訪問しやすい環境作りを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員の経験や力量に合わせた研修受講の機会を働きながらトレーニングしていく事を実施している。</p>		<p>研修委員会を立ち上げ法人内での研修などに取り組む職員へのアンケートをとり受けたい研修について意見をきいている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>法人内の各行事に互いに参加したり、勉強会などを行ったりして意見交換する機会を設けているが、法人外の事業所との交流の場はない</p>	○	<p>管理者間では交流の話しを行うが、実現には至っていない。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>法人内のほかの職員と合同行事、忘年会などで親睦交流を図ることでストレス軽減につなげている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>勉強会・講習会への参加や資格取得への機会を設けている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居希望の相談があった場合は必ず御本人に来訪していただき、ホーム職員とコミュニケーションを取っていただき、困っている事などをお聞きしている。また入居された後の初期ケアの多くの時間を本人との会話やスキンシップに費やし意見や不安な事を引き出すよう取り組んでいる。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居希望の相談時点ではまず初めて認知症の家族をもった事での戸惑いや不安を受け止め、今まで家族が行ってきた介護を労う事を必ず行い、自分達が親をみれない、ホームに入所させるという負い目をなくすことで、ホームへの希望などを聞くように心がけている。(負い目の気持ちが大きいとなかなかホームへの希望が家族様は伝え切れない)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族が必要とされている支援のアドバイスを行政・福祉・医療機関への相談の窓口となれるよう努めている		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員との信頼関係を築く努力とペットや趣味を通じた他入居者の方との友達作りの支援を行いその都度御家族とも相談し馴染んでいただけるよう努めている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員と共に調理や歴史的慣わし事を教えて頂くなど常に尊敬の念を忘れぬよう支え合う取り組みをしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族を各行事にお誘いしたり本人の今困っている状況などもその都度互いに相談し合えるよう取り組んでいる。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御本人と御家族の間でどうあるのが一番最良なのか相談し希望があればその都度築けるよう努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	過去の経緯から御家族と疎遠になってはいるが会いたいと願っている方とも交流できる様取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	何か一つのことを行う際も、皆同じテーブルに集まって行うなど孤立しないよう努めている。又身体機能の低い入居者様も多い為自発的に痛みを分かち合おうとされる姿も見られ、職員もその気持ちに寄り添い支援している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	気兼ねなく相談等は受け入れられる体制である。		病状悪化で入院退居された後も御家族の相談に応じている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや希望の伝えられる方にはその思いに添えるよう努めているが伝えられない方には日々の言動・表情・動作などから察知し引き出すよう取り組んでいる。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族からこれまでの生活歴をお聞きし馴染みの物品、仏壇やタンスを持ってきて頂いたり介護添書からも出来るだけ情報を拾い集め把握に努め取り組んでいる。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日個別の日誌をつけることで小さな変化も見逃さぬようにし毎月の検討会議で取り上げサービス内容評価を行い総合的把握に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月の検討会議で取り上げ、評価見直しと御本人、御家族からの要望もお聞きし介護計画をたてより良い暮らしへの改善に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		<p>今後も毎月サービス内容について評価を行い介護計画に反映させていきたい。</p>
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		<p>2ヶ月に1度の地域運営推進会議に参加してもらっている他、匿名で受けた介護相談の中で緊急に対応しなければならない相談内容には相談者へ地域包括支援センターを紹介している。尚ホームとしての権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントについての協働は現在その必要性が無い為行っていない</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	協力病院はあるが、入居時にご家族やご本人の意向を確認し希望に沿っている。		全入居者にはそれぞれ担当医がおり、病状変化があったときは夜間でも連携行っていたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症への理解ということではなく、ホームに入居されている個々の方の理解をしていただけるよう日常生活を含め受診時に報告を行い支援している。周辺症状が強い方については、随時精神科医との連携を行い特に認知症専門医という事では無いが症状の改善が見られ、ホームのケアに理解があり協力的である。		定期受診や入院などの連携の中でグループホームという生活の場への理解を医師だけではなく、連携先の医療スタッフがそのかわりの中で、深めていただけるようになった。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	現在、看護職の配置はないが、連携先の往診看護師との合同での学習会など行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者の方が入院した場合は可能な限り早期の退院に向け御本人やご家族の意向を汲みながら連携を行っている。		御本人・御家族が早期の退院やターミナル期をホームでの生活を望まれた場合でも、その病状や御本人自身が耐え難い苦痛が予想される場合は、御家族と共に担当医からの病状説明を受け御本人自身が安楽に生活できるよう取り組んでいる。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	病状により必要に応じ御家族への意向確認を行っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期の考え方に付いては医療サービス、介護サービスの提供側と受けて側である御本人・御家族では温度差がある場合も多い為、ホームでの生活を送る中で、病状などに合わせ自然な形でお話を伺っている。現在1名の入居者様については、連携先の医療ソーシャルや担当医御家族と終末期に向けての準備段階にある。	○	法人としての「重度化・看取りケア」についての指針は整備されているが、職員への教育は行っていない。今後計画的に学習会を行えるよう取り組む。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>自宅で使われていたなじみの家具などを居室に置いていただき住み替えのダメージを最小限にできるよう支援している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>誇りやプライバシーを損ねるような対応は行っていない。一人ひとりに合わせた言葉掛けや対応をしている。</p>	○	<p>入居者様の方々の今までの生き方を尊重でき全て入居者様が満足できるような取り組みができれば・・・と思う。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>言動・表情や動作から「して欲しい事」などを把握しご本人の希望に沿いながら出来る限り実現できるように努めている。また自己決定についても御本人に不利益が生じない場合は実現に向け支援している。</p>		<p>御本人が自己決定されたことでご本人にとって不利益が生じることが予想される場合は、御家族と話し合いまた必要時は担当医を交え、ご本人・御家族と一緒に話し合いの場を設けている。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>お手伝いをお願いする時は御本人に伺いをたて大丈夫であれば行っていただいている。また食事や入浴など大まかなホームの日課はあるが御本人の希望にそって柔軟に取り組んでいる</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>個々の好きな髪形や服装を支援している。理容・美容の希望時には訪問美容室や近所的美容室を利用している。希望があれば、パーマや髪染めも行っている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>旬の食材を取り入れ同じテーブルで会話をしながら行っている。個々のペースに合わせて、体調や嚥下状態に合わせて戸惑いなく食事を楽しめるよう取り組んでいる。調理は入居者の方と一緒にいき盛り付けから食器拭きまで入居者様も参加されている</p>		<p>車椅子の方でも、座って出来るイモの皮むきや盛り付けなどで調理に参加できるよう取り組み、握力の低下が見られる方には、本人の了承の下軽い素材で落としても割れない食器を拭いてもらっている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒を好きな方には、医師や御家族と相談し行事などの時に飲んでいただいたり、おやつや飲み物と一緒に買物に出かけた際に御本人の好きな物を選んでいただき、タバコについても時間と場所を決め楽しませている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の失敗の際は本人様が傷つかないようにケアし、不安を抱かれる際は本人様の体調に応じた排泄方法や職員が排泄リズムを把握し失敗がないよう努めている。		入院により紙おむつで退院された方についても早い段階でオムツ外しを行い入院前の排泄ケアまで概ね戻す事ができている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	定期的に入浴日を決めてはいるが、本人様からの拒否や体調によって入浴されなかった場合や本人様から「今日はお風呂に入りたい」などの希望があった場合は柔軟に対応し希望に応じた入浴を行っていただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人様が「休みたい」と横になられる際は自室にて休まれている。居間のソファに休まれる際は掛け布団を用意したり本人様の生活リズムに合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	掃除や調理などの家事を好まれる方にはスタッフと一緒にさせていただき、生活されている。歌や絵や英語など得意な方にも個別で取り組み一人ひとりの生活歴に合わせて得意とされている事を生かせるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来、買物など支払いが出来る方は自己で管理され、お小遣い帳を記入されている方には職員と一緒にいき金銭感覚を忘れないように支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近所の公園や買物など天候の良い日は少しでも外出できるように支援している		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	郊外の公園や大型スパなど2~3人の個別外出やユニット単位で車で外出をしている。またお花見や法人内での夏祭りに出かけたり、年1回の温泉1泊旅行は御家族もお誘いして行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族への電話の希望に添えるよう事業所内の電話を随時利用していただき、御家族宛の荷物の発送や年賀状などの支援もおこなっている。海外に住む御家族とも疎遠にならず交流できている方もいる。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	幼馴染の方や御家族が来訪された際普段の様子をお伝えし自室でゆっくりしていただけるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。また職員は言動にも留意している。車椅子抑制ベルト、ミトン、抑制服・ベット柵など禁止の対象なども運営者のもとより職員は理解している。夜間杖歩行の方や歩行不安定な方にも職員が安全を考慮した上で見守りを行い、万が一転倒、転落の危険がある方にはクッションとなる物を床に敷いて対応している。		随時、身体拘束等の研修に職員は参加している。また身体拘束については今後も行わない方針であるが、マニュアルの整備を行うため準備中である。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関や事業所内全て鍵は開放されており夜間は防犯の為玄関のみ施錠している。入居者の方の居室については施錠の希望が無い為安全を考慮して全て開放している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	自室で休まれている方やトイレに入られている方など常にどこで何をされているかを職員は把握し安全確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	タバコを吸われている方のライターや台所での包丁など常に職員が見守りの状況にて使用していただき事故防止に努めている。		過去の職業で使用されていた手に馴染んだ道具など(カットバサミセット)は御家族との話し合いで自己管理していただき御本人が大切に保管されているその方個々の能力に応じ取り組んでいる。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒の危険のある方特に立ち上がりや単独の歩行に注意しその上で御本人が何をしたいのか見守りケアしている。 服薬に対しては服薬時、日付・朝・昼・夕・氏名を声に出し確認を行っている。行方不明については、日頃より地域の皆様と交流をしました間近の派出所へもホームの地域版広報誌を届けながらグループホームの理解を深めていただき行方不明者を出さないよう取り組んでいる。火災については防火管理者を中心に取り組んでいる。	○	・転倒～動作時は常に見守りを行い歩行の安定を確認する。 ・誤薬～常に個々の薬の状況のチェックを怠らない ・誤嚥～正しい食事姿勢のため椅子の座り方、詰め込み過ぎなどに留意する ・行方不明～入居者の方一人ひとりの所在の確認 ・火災～防火訓練とタバコの火等の確認夜間防火扉の締め切りなど現在行っている事を確実に継続していきたい
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	法人内での大研修において医療・消防の協力得て「緊急時対応」の研修を行った。	○	今年度予定していた救急法の講習の未講習者全員受講が出来ていないため順次受講していく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の防災訓練の開催。 地域運営推進会議～地域の方・医療関係者を交えホームを理解していただき協力が得られるように会議が定例化されている。		第5回地域運営推進会議は搬送訓練を中心に公開で避難訓練を行い地域住民や御家族の参加を頂きグループホームの火災についての取り組みを知っていただいた。 今後も地域運営推進会議開催と参加の呼びかけを継続していきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	受診や事故にての特変事項などの連絡は勿論の事普段より家族と職員(事業所)の関係を深め常に情報交換が出来るよう努めている。また今後起こりうるリスクについてもその都度報告し話し合い取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化時には医師へ報告し指示をもらったり必要に応じ緊急の受診を行っている。常に全身の様子をみてアザなどや歩行状態・表情・活気などから体調の確認に努め記録、送りノートに記入し情報の共有をおこなっている。緊急性の高い場合は急変時マニュアルに沿って緊急受診・救急車要請を行う。		間近の消防署の出張所より、救急隊が欲しい情報を記入した救急搬送時台帳の作成を勧められ、入居者の方一人ひとりの病歴や今までの受診先病院リストを作成し救急隊の確認も行っていただき整備した。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全スタッフが把握できるよう努めているが、完璧に理解が出来ていない状況にある。服薬変更時は自分の目で確かめ、受診しを行ったスタッフと全員が把握できるよう報告、記録に詳しく記入して取り組んでいる。	○	受診に行った職員は、医師との会話、検査内容など詳しく記録に記入し、他のスタッフが理解できるよう情報交換の徹底と受診に行っていない職員も必ず薬の事を把握するよう努める。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	トイレ時はさり気なく声をかけし排便の確認を行うよう努めている。排便困難時は飲み物の工夫を行い腹部マッサージなど行っている。		入居者の方の中には排便困難による持病の悪化の可能性のある方もいる為排便困難時には医師へ連絡をし指示を仰いでいる。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケア時には側に付き見守り声がけを行い口腔内の確認を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分・食事の摂取量については個別の日誌に記録し把握しており、定期的な血液検査などで低栄養になっていないか医師と連携し確認を行っている。		認知度の低下などにより食事量水分量、が少ない場合は御本人の食べ易いものを提供し取り組んでいる。また食事の時間も入居者の方の状況に合わせて食べられる時に食べていただけるよう柔軟に対応している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日手摺り、廊下、トイレなどの消毒を行っている。法人内の研修で年1回感染症について研修を行っている。インフルエンザについては予防接種を行い予防に努めている。感染マニュアルも整備されているが、疥癬・肝炎・MRSAについては感染者は現在いないが、今後感染者が出た場合は担当医の指示の下病状や保菌状態に合わせ対応していく、過度の感染防止対応と対象者の尊厳にはくれぐれも留意する。排泄介助や血液・吐物処理については感染源とみなし必ず手袋にて処理を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・台所～調理用具の消毒を毎日行っている ・冷蔵庫～常に衛生を心掛け掃除を行い長期の食品保存は行わない、冷蔵庫内の温度は一定に保たれるように温かいものは荒熱を取り保存している ・鮮度の良いものを食して頂くために長期の買い溜めをしていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の周りに花を飾り、ベンチを置き立ち寄りやすいよう工夫をしているが、近所の方はホームに用事が無い限り特に立ち寄る事は無い		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	スタッフは声のトーンに気をつけ、テレビの音量や陽射しが強い場合など配慮している。季節ごとの装飾なども行い季節を感じていただけるよう工夫している。		ユニットの特徴として個人の居室にいる事より皆さん居間に出てこられお互いの顔が見えていたり、声が聞こえる事で安心している様子が伺える。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前、ベランダ前、廊下にソファや椅子を分散する事で個人の空間が確保され入居者の皆さんも活用されている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に御本人のなじみの物を持ってきていただき、ホームで生活することで新たに揃えた方が御本人が安心する物品などが把握できた場合は御家族へ連絡し使い慣れたものを持ってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	共同のスペース、トイレ、居室を清潔に保ち、排泄による気になる匂い等は、換気や安全配慮を行い消臭剤などを使用し配慮している。温湿度計を置き適時温度管理を行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居間・階段・風呂場・トイレなどには手摺が設置されているが、全ての入居者様の身体機能を網羅できる状況に無いため(ある方のためにすべり止めマットを使用すれば、違う方の取っ手は、歩行の邪魔になり足が取られる等)職員は常に見守りを行い安全配慮を怠らない。	○	居室入り口にスロープが設けられており、撤去困難な為見守りを行い転倒防止に努める。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱ある時は全職員統一した声がけ、ケアを行っている。職員、家族の情報を下に改善出来るように努めている。トイレや自室など御本人がわかり易い目印の工夫を行っている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関周のプランターや、菜園を入居者様と作り天気の良い日はテラスでお茶会など楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>入居者様と話しをしなるべく想いや願いをかなえられるよう努めている</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>日々の暮らしの中で一緒にお茶を飲んだりテレビを見たり趣味活動を行ったりして過ごしている</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>入居者様一人ひとりのペースで過ごしていただき、その中で皆様の意欲を引き出し生き甲斐感や達成感をもっていただけるよう手伝いや役割を行っていただいている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>ゴミ捨てや散歩、皆でゲームをすることで、「この方がこんな顔をするんだあ」と新たな発見があり、素敵な笑顔が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>散歩や買物に出かけている。希望がある時はなるべく早く希望に添えるよう取り組んでいる。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>全ての方が不安なく過ごしているとは思えない、食事面などでは持病などので不安や不満をもたれている人もおり医師と相談している。安全面では、自分で体を動かす事ができない人も多いため腕や足など職員側が充分安全の確認を行っているが入居者の方が本当に安心していただけているのかは掴み切れない。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>職員間の連携を大切にしその時々で臨機応変に個々の入居者の方にあった支援を行えるよう日々努めている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>家族の方が来られた時はコミュニケーションを取ることに努め希望されている事には可能な限り応えているが、病状などに影響がある場合は御家族、御本人と一緒に医師を交え話し合い取り組んでいる。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>行事の案内を行い参加呼びかけを行い少しづつ地域との交流ができ始めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>地域運営推進会議や町内会の総会への参加などを行い少しずつホームを理解していただけるようになった。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>毎日楽しく働けるよう努めているが、改めて聞かれ考えると自信をもって生き生き働けていると言えるかは悩むところです。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>入居者の方からは深刻な不満は聞かれては居ないが、だから「満足」しているかはなかなか判りづらい、日々入居者一人ひとりの方に満足していただけるようサービスの提供には努めている。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>御家族の方から「満足しています」または「不満があります」との声がはっきり聞かれるわけではないので、本当は不満をもたれている方も居るかもしれないと思いますがなるべく御家族の話をききサービス提供をし満足していただけるように努めている。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)認知症を特別な事として捉えるのではなく、「○○さんだから」という視点に立ち個性を大切にハートの家伍番館と一緒に生活を楽しめるように支援させていただいている。